
第7章: 普及啓発ツールの作成

第7章 普及啓発ツールの作成

1. 普及啓発ツール作成の目的

本研究においては、介護分野、特に特別養護老人ホームにおいて高齢者を活用するために、職務内容の変更や、福祉用具を活用することの有効性を明らかにしてきた。

しかし、こうした検討の結果も特別養護老人ホームの経営者、管理者、ケアワーカーという実際に現場で日々奮闘する方々の目に触れることがなければ、現状を変える契機とはなり得ないことは明らかである。

そこで、本研究の成果を上記のような現場の方々に見ていただき、職場の変革の検討の際の材料となることを目的として、普及啓発ツールを作成した。

啓発ツールの開発にあたっては、なるべく多くの方が見ることができ、内容的にわかりやすくすることに留意した。その結果、インターネットで公開すること((財)高年齢者雇用開発協会ホームページ <http://www.assoc-elder.or.jp/>)、多くの説明を要する部分は本報告書を参照いただくこととして、研究結果の概要を視覚的にわかりやすくストーリー形式で示すこととなった。

2. 普及啓発ツールの概要

本ツールの構成は、まず介護職場で一般に言われている高齢者観に疑問を投げかけ、それに答える形で数種類の対話形式のストーリーとなっている。施設長やケアワーカーなどの登場人物を設定し、簡略な会話で解説をしているほか、シミュレーションの動画などを用いて視覚的に理解できるように配慮している。

構成の概要は以下の通りである。

導入部
<ul style="list-style-type: none">・ミレニアムプロジェクトについて・施設における高齢者観・登場人物紹介
ストーリー1(介護労働は、高齢者にとって身体的にきついのではないか)
<ul style="list-style-type: none">・福祉用具活用による可能性(シミュレーション結果を用いて)・職務分担の変更による可能性(シミュレーション結果を用いて)
ストーリー2(施設経営にとってどうなのか)
<ul style="list-style-type: none">・経営にとっての影響は少ない(事業収支シミュレーションの結果から)
ストーリー3(利用者は、高齢者による介護をどう思うのか)
<ul style="list-style-type: none">・高齢のケアワーカーに好感をもっている(施設入所者ヒアリングの結果から)
今後の高齢者活用の可能性と高齢者活用にあたっての施設の課題

普及啓発ツールのトップページ



理解しやすくするための工夫(登場人物の設定)



*Microsoft、Windows、Microsoft Internet Explorer は、Microsoft Corporation の米国、およびその他の国における商標、又は登録商標です。

理解しやすくするための工夫(ストーリーの工夫と動画の活用)

